

新郡市医師会長の紹介



岩見沢市医師会

会長 ^{とくち} ^{ふみお} 得地 史郎 先生

令和5年6月、竹内文英前会長の後任として得地史郎先生が第18代岩見沢市医師会長として就任されましたのでご紹介いたします。

先生は岩見沢市に生まれ、昭和61年に岩手医科大学医学部を卒業された後、北海道大学病理学第二講座に入局されました。その間、国立精神神経センター・神経研究所を経て医学博士号取得と同時にロックフェラー大学へ留学しています。帰国後は北大第三内科に入局し、愛育病院消化器科医長として医療と後輩育成に尽力されました。

昭和45年にお父様の得地一久先生（第14代当医師会会長）が『とくち内科医院』を開業されてから53年目となります。先生はお父様の跡を継ぎ平成12年から院長に就任されて以降、ご専門の消化器科を中心に地域に愛されるクリニックを実現しておられます。先生の座右の銘は「昨日から学び、今日を生き、明日へ期待しよう」であり、そのポジティブさと周囲への気配り、気さくな人柄は誰もが認めるところです。先生の弟様が副院長として呼吸器科を担当され、他の医療機関との連携を重視しながら多方位の医療を提供しています。奥様の早智子様も管理栄養士として携わり、同院ホームページで毎月掲載の『news letter』には健康的で素敵なメニューをご披露されています。さらにご子息夫婦、お嬢様方も医療の道へ進まれており、この先も先達の思いを継承されるのだと確信します。

医師会としては地域医療を守るべく准看護師育成の場である岩見沢市医師会附属看護高等専修学校の校長としてもご活躍されています。そして、常に事前の情報収集を怠らず何事にも真剣に取り組む先生のお姿の下、当医師会会員が一丸となって最善を図り、不断の努力をもって山積した課題に対応しながら市民の健康を支えていきたいと存じます。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

岩見沢市医師会理事 総務部長 牧 雄司



紋別医師会

会長 ^{たけだ} ^{あきひさ} 武田 彰久 先生

八期一六年間務めた小林正司前会長に代わり就任した武田彰久新会長。ご本人は東京医科大学を卒業し、しばらくは関東の病院に勤務し、二〇〇九年に出身地である紋別市で祖父の代から続く武田医院を、奥様で皮膚科専門医の秀美さんとともに継ぎ地域に根ざした医療に取り組んでいます。

会長就任の抱負として「自分らしい医師会運営にチャレンジ精神をもって取り組みたい」と語りました。地域の課題である医療従事者等の不足については、広域紋別病院や近隣の遠軽厚生病院、北見赤十字病院と連携体制を構築し、脳卒中、心筋梗塞患者の直接救急搬送体制を整えているほか、医師不足には合理的システムで補完し、西紋別管内医療機関や行政とは顔が見える関係づくりを進めたいと熱く話しました。

最後に新会長は「安心して暮らす基本は健康。住民の皆さんに寄り添い、誰一人取り残されることのない、地域に根ざした医療に努めたい」と結びました。

北海道医報通信員

紋別医師会 鈴木 一弘

旭川医科大学医師会

会長 ^{あずま} 東 ^{のぶよし} 信良 先生



2023年7月、東信良先生が旭川医科大学医師会長として就任されました。

先生は1985年に旭川医科大学医学部を卒業し、本学第一外科にて医師生活をスタートされております。その後1997年に米国Yale大学血管外科にリサーチフェローとして留学され、研鑽を積まれました。1999年に帰国、本学第一外科に戻られ、2001年に講師、2011年に准教授を経て2012年6月より現職の旭川医科大学血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野教授に就任されております。また旭川医科大学病院においても2019年より副病院長、2023年7月より病院長を兼任されています。

学会活動としては、日本血管外科学会では代表理事として、また日本心臓血管外科学会、日本脈管学

会、日本静脈学会、日本フットケア・足病医学会、Japan Endovascular Treatment Conferenceなどの主要な学会で理事あるいは監事として要職を務められており、専門領域の関連Journalでは編集委員も兼任されています。更に2020年にはそれまでの活躍が評価され、北海道科学技術賞を受賞されました。

当院の病院長としての所信表明では、3つの課題を取り上げられ、それぞれの解決に向けての戦略を明示されました。特に「効率的運営に取り組み、収益増を実現する」「タスクシフトや医療DXにより働き方改革を実現する」「収益増と節約した時間を背景に、魅力ある医療の実践と医療人育成に注力する」点を強調されました。また、本学の特色の一つでもあるドクタースマホの有効活用についても触れられ、クラウド型遠隔医療システムの拡充についてビジョンを示されました。

東先生のご活躍の下、本学医師会の益々の発展を祈念し、ご紹介とさせていただきます。

北海道医報通信員

旭川医科大学医師会 沖崎 貴琢

お知らせ 研修会等への託児サービス併設費用の助成について

当会では、子育て中の医師などに対し、学習する機会を確保することにより、勤務継続や復職の支援を行うことを目的に、下記基準を満たす研修会などにおいて託児サービスを併設した場合の費用として2万円を上限に助成することといたしております。

つきましては、該当の会議、研修会等がございましたら、当会事業第二課までご連絡くださいますようお願いいたします。

助成基準

1. 対象 (1) 当会会員が会長となって北海道内で開催する全国規模の医学会など
(2) 当会会員が会長となって開催する、医師を対象とした学術講演会など
(3) その他、当会が認めたもの

【助成内容】託児室利用料、保育料、交通費

(遊具・おやつ・おむつ等購入代は対象外)

2. 期間 2023年4月～2024年3月実施分
3. 助成額 2万円を限度として実費を助成いたします。
※ただし、営利団体等の負担金がある場合は対象外とします。
4. 申請方法 領収書の写し等を添付の上、所定の用紙※によりご申請ください。
※下記連絡先までご請求願います。

《連絡先》 北海道医師会事業第二課
〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目
TEL 011-231-1725 (直通) FAX 011-231-7272 E-mail: josei-dr-shien@m.douji.jp